

令和3年度 さいたま市立常盤中学校 学校関係者評価書

さいたま市立常盤中学校

学校関係者評価委員長

管野 吉雄



1 学校関係者評価の実施体制

(1) 構成人数 15人

(2) 実施回数 3回

2 学校関係者評価（学校関係者評価委員の意見等）

学校教育目標である「心豊かな中学生 自ら学ぶ中学生 活力あふれる中学生」の具現化に向けて、日頃子どもたちを熱心に指導している先生方に感謝する。昨年度に引き続き、コロナ禍の影響で、さまざまな取組が中止あるいは、延期、内容変更等の措置がなされ、学校教育が受けた影響は大きい。また、学びを保障する手段として遠隔・オンライン教育など新たな学校教育の在り方を検討していくことも求められている。来年度は、さらに子どもたちの笑顔が増え、活力あふれる常盤中学校区となることを期待している。

さて、本会にて今年度の学校評価結果報告を受け、以下の点について言及したい。

- (1) 本地域は教育に熱心な家庭が多く、「授業は、わかりやすいですか」という項目に対し、93.2%の生徒が肯定的な回答をしている。また「学校は、授業を工夫し、わかりやすく教える努力をしていますか。」という項目に対し、85.6%の保護者が肯定的な回答をしている。GIGAスクール構想の促進に伴い、今後ICT機器の活用やタブレット使用に関する課題が出てくることが予想される。環境を迅速に整備し、一人でも多くの生徒が社会で生きる学力を身に付けられるように教育活動を推進していただきたい。
- (2) 「悩みがあるときに、相談できる先生がいますか。」という質問に83.8%の生徒が肯定的な回答をしている。昨年に続き「ほのぼのタイム」を各学期当初に導入し、生徒と学校職員との信頼関係の構築を目指していると聞いた。また「学校は、お子様に誠意をもって対応していますか。」という質問に94.3%の保護者が肯定的な回答をしている。今後も引き続き、生徒・保護者・教職員の心の通い合う学校づくりに努めていただきたい。
- (3) 毎月の安全点検を中心に学校職員に限られた範囲の中で、生徒が安心・安全に生活できる環境を目指して先生方が細かく整備していることに感謝したい。しかし、学校の老朽化により、正門の電灯の故障や防球ネットの欠陥、ベランダや非常階段等の腐食、体育館床や机・椅子の老朽化といったさまざまな箇所での不具合を確認することができる。魅力ある学校づくりを目指すために、早急な改善を求めたい。
- (4) 「学校は、たよりやHP等で、情報をわかりやすく発信していますか。」という質問に、90.6%の保護者が肯定的な回答をしている。今年度よりHPをリニューアルし、「常中 today」を中心に日々の学校の様子を発信している。学校への来校が制限されている中で、このような情報発信が地域や家庭に安心感を与えてくれる。今後も地域に開かれた学校づくりを継続していただきたい。
- (5) 学校評価の結果において、教職員の肯定的な回答が生徒に比べると、若干低い傾向にある。来年度は学校の教育活動に教職員が自信をもって取組み、自己有用感や自己肯定感を高め、教育活動を推進していただきたい。

学校関係者評価を受けた学校の対応

- (1) 昨年度から、学校課題研究「主体的・対話的で深い学び」に取り組んでいる。来年度も「主体的・対話的で深い学び」の視点を生かした授業を展開していき、「新時代でも、自分を持ち、心豊かで活力あふれる人の育成」に向け、新学校職員が一丸となって授業研究に努めていく。
- (2) 社会に開かれた学校づくりを目指し、今年度は「常中 today」をはじめとして、さまざまな形で情報発信を行ってきた。しかし、今回のご指摘にあるように、来年度は教職員の自己有用感や自己肯定感も高め、教職員が自信をもって教育活動に取り組んでいくことが、さらに地域に魅力ある学校となることを再確認できた。

さいたま市立常盤中学校

渡邊祐子

